

容量市場の第1回入札失敗はどうして起きたのか?

『容量市場の真実 第1回入札の失敗を詳細分析』発行!

インプレスグループで電子出版事業を手がける株式会社インプレスR&Dは『容量市場の真実 第1回入札の失敗を詳細分析』(著者:山家 公雄)を発行いたします。

『容量市場の真実 第1回入札の失敗を詳細分析』

<https://nextpublishing.jp/isbn/9784844379423>



著者:山家 公雄

小売希望価格:電子書籍版 1,100円(税別)／印刷書籍版 1,400円(税別)

電子書籍版フォーマット:EPUB3／Kindle Format8

印刷書籍版仕様:A5判／カラー／本文116ページ

ISBN:978-4-8443-7942-3

発行:インプレスR&D

<<発行主旨・内容紹介>>

いくつか存在する電力市場のうちの一つ「容量市場」は、現在使う電気ではなく、数年後(日本の場合は4年後)に必要とされる電気を供給する能力を確保・入札する市場です。

その必要性を巡る論議はあったものの、2020年日本では容量市場が創設されました。しかし、2020年9月14日の第1回の入札結果は、先行する海外でも類を見ない高額な約定価格となりました。これにより、2024年度には応札した発電所は総額1.6兆円もの支払いを受けることになります。この1.6兆円は小売事業者が負担する一方で、発電設備の8割は旧来の電気事業者が所有しています。

この容量市場による落札結果・負担金により、卸電力取引市場の機能が阻害されて電力価格が高止まりし、新電力は経営の危機に陥り、非効率の発電設備が生き残って再生可能エネルギーの導入が進まなくなるという分析もあります。

この本では、この人為的な「日本版」容量市場の失敗要因について詳細に分析します。その中で、米国PJMの容量市場との比較、そして容量市場のないテキサス州との比較を行い、今後の日本の電力市場のあるべき姿について論じます。

(本書は、次世代出版メソッド「NextPublishing」を使用し、出版されています。)

<<目次>>

はじめに —市場機能で発電設備を活用し、新陳代謝を実現—

第1章 電力市場と日本版容量市場

- 1-1 はじめに:第1回容量市場入札結果のインパクト
- 1-2 電力市場の役割とは何か:供給側に偏った利益を消費者に移す
- 1-3 容量市場の目的と課題を海外はどう考えたか
- 1-4 日本版容量市場の悲劇

第2章 容量市場とは何か —日本で検討されたこと—

- 2-1 容量市場が必要とされる理由
- 2-2 日本版容量市場の概要と特徴
- 2-3 第2章の終わりに:海外比較を含めて議論を尽くしたのか

第3章 あり得ない高価格となった第1回入札 —総額1.6兆円負担の意味—

- 3-1 第1回容量市場入札結果とその解釈
- 3-2 高価格約定となった理由を考える
- 3-3 供給過小(発電設備埋没)を検証する
- 3-4 第3章の終わりに

第4章 米国と本質的に異なる制度 —PJMとどこが違うか—

- 4-1 容量市場の基本設計
- 4-2 米国PJMの特徴
- 4-3 日米制度の本質的な違い

4-4 第4章の終わりに

第5章 容量市場なしで予備力を確保するテキサス州

5-1 電力市場の役割とは何か

5-2 ドイツの戦略的予備力

5-3 テキサス州のエネギーオンリーマーケット

5-4 第5章の終わりに

終章 容量市場入札総括こそ2050年温室効果ガス排出実質ゼロの出発点

参考文献

著者紹介

<<著者紹介>>

山家 公雄

エネルギー戦略研究所(株)取締役研究所長、京都大学大学院経済学研究科特任教授、豊田合成(株)取締役、山形県総合エネルギーアドバイザー。

1956年山形県生まれ。1980年東京大学経済学部卒業後、日本開発銀行(現日本政策投資銀行)入行。電力、物流、鉄鋼、食品業界などの担当を経て、環境・エネルギー部次長、調査部審議役などに就任。融資、調査、海外業務などの経験から、政策的、国際的およびプロジェクト的な視点から総合的に環境・エネルギー政策を注視し続けてきた。2009年からエネルギー戦略研究所所長。

主な著作として、「日本の電力ネットワーク改革」、「日本の電力改革・再エネ主力化をどう実現する」、「テキサスに学ぶ驚異の電力システム」、「送電線空容量ゼロ問題」、「第5次エネルギー基本計画」を読み解く(以上、インプレスR&D)、「アメリカの電力革命」、「日本海風力開発構想一風を使い地域を切り拓く」、「再生可能エネルギーの真実」、「ドイツエネルギー変革の真実」(以上、エネルギーフォーラム)、「オバマのグリーン・ニューディール」(日本経済新聞出版社)など。

<<販売ストア>>

電子書籍:

Amazon Kindleストア、楽天koboイーブックストア、Apple Books、紀伊國屋書店 Kinoppy、

Google Play Store、honto電子書籍ストア、Sony Reader Store、BookLive!、BOOK☆WALKER

印刷書籍:

Amazon.co.jp、三省堂書店オンデマンド、hontoネットストア、楽天ブックス

※各ストアでの販売は準備が整いしだい開始されます。

※全国の一般書店からもご注文いただけます。

【インプレスR&D】 <https://nextpublishing.jp/>

株式会社インプレスR&D(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:井芹昌信)は、デジタルファーストの次世代型電子出版プラットフォーム「NextPublishing」を運営する企業です。また自らも、NextPublishingを使った「インターネット白書」の出版などIT関連メディア事業を展開しています。

※NextPublishingは、インプレスR&Dが開発した電子出版プラットフォーム(またはメソッド)の名称です。電子書籍と印刷書籍の同時制作、プリント・オンデマンド(POD)による品切れ解消などの伝統的出版の課題を解決しています。これにより、伝統的出版では経済的に困難な多品種少部数の出版を可能にし、優秀な個人や組織が持つ多様な知の流通を目指しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:松本大輔、証券コード:東証1部9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」「学術・理工学」「旅・鉄道」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【お問い合わせ先】

株式会社インプレスR&D NextPublishingセンター

TEL 03-6837-4820

電子メール: np-info@impress.co.jp